

令和5年2月7日

上尾市議会議長 星野 良行 様

都市整備消防常任委員会
委員長 井上 茂

都市整備消防常任委員会行政視察を行ったところ、その概要は下記のとおりでありますので、報告いたします。

記

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 日 時 | 1月24日(火)
午前10時～午前11時10分 |
| 2 | 視 察 地 | 埼玉県川口市 |
| 3 | 視察内容 | 雨水流出抑制対策事業について |
| 4 | 参加議員 | 井上 茂 井上 智則 尾花 瑛仁
戸口 佐一 渡辺 綱一 大室 尚 |
| 5 | 執 行 部 | 都市整備部長 小林 克哉
上下水道部長 新井 一頼 |
| 6 | 随 行 | 議事調査課主査 鈴木 知哉
議会総務課主任 遠藤 和秀 |

●埼玉県川口市

- 1 調査項目 雨水流出抑制対策事業について
- 2 調査期日 令和5年1月24日（火）
午前10時～午前11時10分
- 3 市の概要 人口 604,715人（令和5年1月1日現在）
行政面積 61.95㎢
令和4年度一般会計当初予算額
2,198億2,000万円

4 調査の目的

全国各地では、毎年のように大規模な自然災害が発生している状況である。本市でも令和元年台風第19号による一級河川「荒川」の被害に対して初めて災害救助法が適用されるなど、災害の発生確率の増加、異常気象の頻発・激甚化は顕著であり、自然災害が市民生活や企業活動に影響している状況である。

川口市では、令和元年台風第19号により内水被害があった地域（芝川流域）において、雨水貯留施設を整備したものである。

本市は芝川において、川口市の上流に位置しており、自然災害に対するまちづくりについて取り組みを進める必要性があることから、本市の水害対策の検討に資することを目的とする。

5 調査内容

(1) 令和元年東日本台風の状況

川口市において、芝川と藤右衛門川が合流する地点（柳崎地区）では、さいたま市から流れる排水路や用水路も合流しており、さいたま市の地域702.5ヘクタールの雨水も受け入れている状況である。

合流地点では柳根排水機場を平成7年に設置し、内水対策に取り組んできたところである。この排水機場は累加雨量約250ミリメートルまで対応しているが、当該台風では28

0ミリメートルを超える雨量があったため、合流地点で約80センチメートルを超える道路冠水があり、床上浸水40棟、床下浸水32棟の被害があった。

(2) その後の対応

被害の軽減を図るため、柳崎地区の8公園に地下貯留施設を設置することを計画した。そこに、国において緊急自然災害防止対策事業債が創設されたため、先行して2公園を整備したものである。

(3) 雨水貯留施設整備工事

公園の一部を掘削し、プラスチック部材を設置、シートで覆い、埋め戻すほか、流入口を整備するなどの工事である。

プラスチック部材は樹脂製のブロックでできており、軽量なため、人の手で運べるものである。

なお、覆うシートは、地下水の状況により遮水シートか透水シートを選択する。

また、工事箇所の地上は維持管理を考慮し、遊具の設置はせず、グラウンドとして使用している。

(4) 貯留施設の維持管理

流入柵に堆積した土砂の撤去は点検口から可能であるが、全体に溜まった場合の土砂の撤去が課題となっている。

6 質疑応答（事前質問の回答は別紙参照）

問 ランニングコストとして堆積土砂の撤去が課題とのことだが、撤去作業の間隔は。

答 施設の稼働の状況を確認し、メーカーと協議しているところである。

問 柳崎地区の8公園に整備予定とのことだが、現在の進行状況は。

答 毎年2公園を整備してきており、現在6公園の整備が完了したところである。当該地区については8公園で一旦完了とする。市内のその他の地域で、冠水が見られるところにも整備を予定

しているが、公有地がない場合は、用地を取得し、貯留施設を設置の上、公園等で使用できることを検討している。

問 柳崎地区に貯留施設を整備する公園は、既存の公園を利用したものか。

答 区画整理で整備された地区であり、既存の公園を活用している。

問 貯留施設はどのようなシートで覆っているのか

答 地下水が高い場合は遮水シート、低い場合は透水シートで覆い、その上を保護シートで覆っている。

問 透水シートで覆った場合、その周りは砕石で埋めるのか。

答 メーカーでは地下水の状況によりシートで覆うところまでとなっている。

問 道路などに設置することは検討しているか。

答 道路管理者に相談したが、生活道路には、水道・下水などの管が埋設されており、貯留施設が支障になるため、設置は難しいと判断した。

問 開発許可の要件に貯留施設を設置することを検討しているか。

答 設置に当たりメーカーに確認したところ、県内で200件程度使われている状況であった。直近では400件に増えているとのことである。都市計画の開発許可でも当該部材の採用が見受けられる。市から開発許可で当該部材を指導するところまでは至っていない、部材に何を使うかは開発者の判断であり、市が推奨することもない。

問 柳崎地域以外に浸水被害を把握しているか。

答 市内で治水事業として5～6か所を進めている。地下貯留ではなく調整池を設置する地域もある。旧鳩ヶ谷地区では、県と協議しポンプの増強工事も行っている。プラスチック製の地下貯留は柳崎地区以外に市内で用地を確保しながら3地区を計画している。

問 総合治水計画などとの位置づけは。

答 下水の計画が主であるが、下水の計画で進めることには時間がかかることと、高価なものでないと国から補助されないことなどがあり、計画が進まないところである。国の緊急自然災害防止対策事業債があることをきっかけに進めている。

問 国が緊急にどこにお金を出すかを見極めながら進めている事

業と理解していいか。

答 そのとおりである。

雨水の計画は時間がかかる。川口市では道路下に雨水管を整備することを進めてきたが、完成まで12～13年が必要である。

問 県が整備するプールに貯留施設の検討はされているか。

答 開発行為であり、必要量を貯留する必要がある。プールの横に川口市の総合グラウンドを計画しているが、そこにプラスチック製の貯留施設を設置することを検討している。

問 メンテナンスについて、点検口などの設置はされているのか。

答 流入柵を設置し、泥溜めに溜まった土砂を排出することで、施設内に土砂が溜まることを防げると考えている。想定以上の土砂が流入した場合、どのように排出するかが課題となっている。

問 時間差で排水するとき、ポンプアップか、自然流下か。

答 自然流下で設計している。

地下の深いところに設置すると、自然流下は難しいこともあり、ポンプを設置するところもある。

(川口市)



川口市議会議長あいさつ



井上委員長あいさつ



川口市担当部局



視察状況



井上副委員長あいさつ



川口市議会 議場